

活動報告（歴史資料保全ネット・わかやま）

2024.2.17～18 第10回全国史料ネット研究交流集会
報告者:橋本唯子（歴史資料保全ネット・わかやま代表 和歌山大学）

発足の経緯・組織体制・紀伊半島大水害時の活動など

【2011年9月、紀伊半島大水害後に発足】

- 和歌山大学関係者、博物館・文書館関係者、文化財担当者、研究者、市民により結成
- 2011年9月紀伊半島大水害（台風12号水害）に被災資料のレスキュー活動

和歌山県立博物館「災害と文化財」より水害救出文化財



参考11 エタノールの噴霧
カビの状態を確認しながら、エタノールを噴霧して、カビの発生を抑える応急処置を行う。

近年の主な活動① 紀伊半島大水害被災公文書現状確認調査

2016年7月4日、田辺市・新宮市・古座川町、2017年10月27日田辺市、同年11月24日新宮市において調査を実施

- 一部行方不明文書あり
- 一部未確認文書について継続調査が必要
- 多くが元の場所へ保管、同様の水害に対する被害対応への懸念



近年の主な活動② 台風21号により被災した郷土資料のレスキュー

【2018年9月9日（21号台風通過5日後） 御坊市】

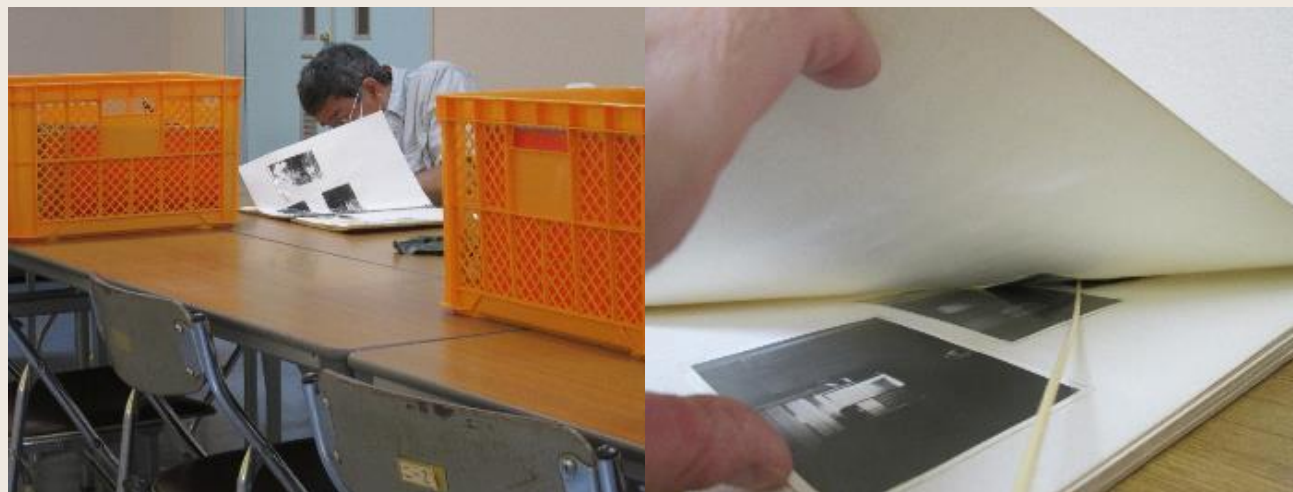
- 地元郷土史家（故人）が生前に収集・作成した郷土資料が保管されていた私設研究室の壁が大破 御坊市教委の相談を受けて12名で作業
- 建物の解体前に写真資料ほか貴重な郷土資料を移動、乾燥 風雨にさらされた写真資料のアルコール消毒などを実施



台風21号（2018）により被災した郷土資料の再調査・クリーニング

【2020年9月17日 再調査・クリーニング作業実施（御坊市）】 本会会員4名が参加

- 約1,800冊の写真アルバムから固着被害の強い約150冊のクリーニング作業を行った



- その後① 和歌山大学博物館学芸員養成課程（博物館実習）での作業（約100冊） 11/30、12/9、12/24（計3回）で完了



- その後② 御坊市文化財研究会による作業 10/9、18、26、11/9、22、12/2、13（計7回）により完了

線状降水帯発生にともなう大雨被害に関する呼びかけ（2023.6）

【大雨被害に際し、チラシを作成し呼びかけ】

- 県内各地から相談・周知に関して問い合わせあり

大雨で被災された地域の皆さまへ

歴史資料保全ネット・わかやま

連絡先 電話 073-457-7977（和歌山大学構本研究室内）
FAX 073-457-8020（同上）
e-mail: hizenetwakyama2011@gmail.com



水に濡れた紙・写真の保全・修復について、ご相談承ります

このたびの大雨によって被災された皆さまに、謹んでお見舞い申し上げます。大雨などの災害によって、家や蔵や公民館などに保管されていた資料が水濡れたり、泥をかぶったりすることがあります。そして、その被災した資料がやむを得ず捨てられることが起こっています。私たちが「歴史資料保全ネット・わかやま」（代表 橋本唯子和歌山大学准教授）は、和歌山県および市町村・関係団体と連携をとりつつ、大雨で被災した資料を救出・保全する活動を行っています。被災された地域の皆さま、濡れてしまってお困りの紙類（被災資料）がありましたら、応急処置についてお問い合わせください。できる限り対応させていただきますので、下記までご連絡ください。被災資料の調査・救出へのご理解・ご協力をお願いいたします。

◇被災資料の対応でお困りではありませんか？

- ◎古文書（和紙に墨の崩した文字で書かれた帳簿や書類など）や古い本（和綴じの書籍など）
 - ◎新聞・写真・アルバム・絵・記録（手紙や日記など）、ノート
 - ◎掛け軸などの書や絵画、古いふすまや屏風（古文書が下貼りになっている場合があります）
 - ◎自治会・農会などの団体の記録や資料
- その他、捨てられない大切なものがございましたらご相談ください

【2018年台風21号の時の活動のようす】



このQRコードを読み取ることでメールアドレスにつながります



お問い合わせ先:和歌山大学構本研究室内
〒940-8510 和歌山県和歌山市
電話 073-457-7977、FAX 073-457-8020
e-mail: hizenetwakyama2011@gmail.com

和歌山県文化財保存活用大綱の策定への協力

【2021年3月策定】

- 2019年4月 改正文化財保護法施行にともない、都道府県教育委員会が大綱を定めることができるものと規定
- 2021年1月8日 歴史資料保全ネット・わかやま 2020年度第1回全体会において大綱案を協議、修正案を提示
- 2021年3月、和歌山県教育委員会が大綱を策定。上記修正案も一部反映
- 第6章「文化財の防犯・防災対策及び災害発生時における対応」に歴史資料保全ネット・わかやま設立経緯が示される
- 2021年8月大雨、12月3日震度5弱地震、2022年1月トンガ諸島付近噴火に際して照会あり

《文化財関係組織等災害時連携体制》

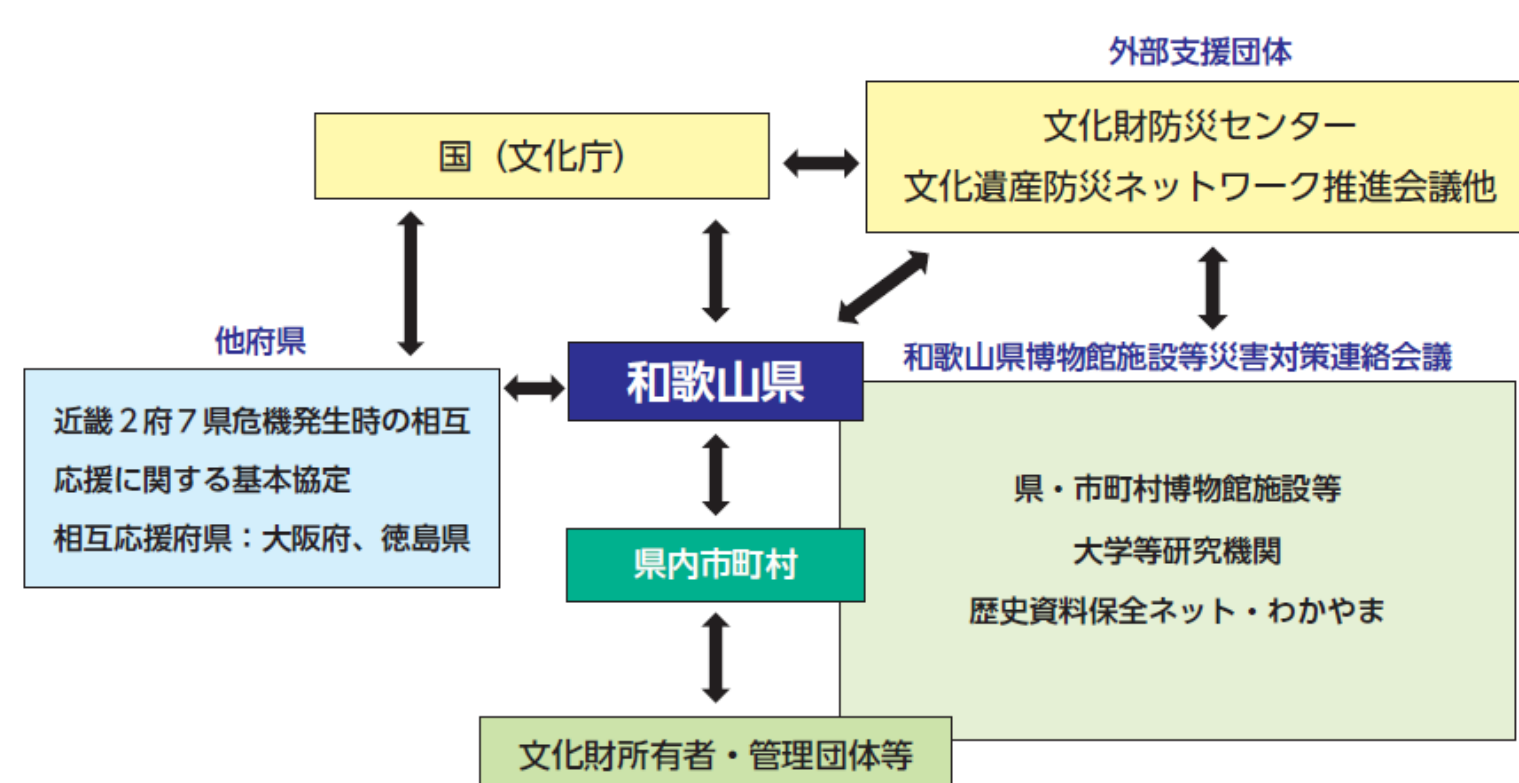


図9 文化財関係組織等災害時連携体制

『和歌山県文化財保存活用大綱』より

連携・関連事業 和歌山県博物館施設等災害対策連絡会議

- 博物館・図書館・市町村教育委員会など計79機関が参加（2021年1月現在）
- 2023年3月17日 和歌山県立博物館において2022年度幹事会を開催
- 和歌山県文化財災害対応マニュアル作成（2023年11月）への協力

その他 本会会員にかかわる活動

- 2023年10月29日付産経新聞「先人からのメッセージ 防災減災わかやま」への寄稿 など
- 2023年12月13日国際会議「アジア太平洋地域における文化財防災の現状と課題Ⅲ」―災害へのレジリエンスを高めるための減災の取り組みと事前の備え―への登壇（藤隆宏氏、「和歌山県における「災害の記憶」事業の取組」）

まとめ・展望

【南海トラフ地震に対する備え・認識の広がり】

- 和歌山県地域防災計画（2016年度改定）に、災害時における文化財（未指定含む）の救援・保全活動が明記

【和歌山県地域防災計画より抜粋】

基本計画編 第3編 第14章 第6節 文化財等救援・保全活動の計画（県教育委員会）

- 計画方針
災害時における文化財等の救援・保全等の措置を図るものとする。
- 計画内容
災害発生時においては、各市町村教育委員会及び県内博物館施設等が加入する和歌山県博物館施設等災害対策連絡会議と連携し、文化財の被害状況を把握し、救援・保全を速やかに実施するよう努めるものとする。
また、文化庁及び国立文化財機構等を通じ、外部の専門的救援団体や、近畿2府7県危機発生時の相互応援に関する基本協定に基づく文化財建造物の被災調査に関する要領による応援部隊を受け入れるものとする。